



結
yui

2019. 7. 13 No.88

発行「憲法9条の会つくば」
〒305-0005
つくば市天久保 1-10-12 1-401
Fax 029-856-2286



<http://peace.arrow.jp/tsukuba2/>

参議院選挙で、明日の日本を選ぶ

7月4日、参議院選挙が公示されました。国民が立憲主義、民主主義を守り、平和で希望の持てる明日の日本を選ぶことができる、歴史的な機会です。この大事なチャンスを生かすために、選挙には必ず行きましょう。

2012年12月に発足し、これまで6年半続いた第2次安倍政権は、この選挙に勝利して、今年11月に通算在職日数を憲政史上最長とし、自民党総裁4選を実現させて、更なる長期政権を目論んでいます。

そのため安倍政権は綿密に準備を重ねてきました。今年に入って、天皇の代わり、元号の変更を利用し、マスコミを巻き込んでの皇室フィーバーを作り出し、それまでくすぶっていた安倍政権批判から国民の目をそらそうと試みました。外交に強い安倍政権との宣伝の延長線上に、新天皇・令和になって最初にトランプ米大統領の訪日を実現させ、初めて日本で開かれるG20を先取りして自分の政治力を誇示することに、ある程度成功したように見られていました。その流れに乗って、安倍政権は「衆参同時選挙」を考えたように見えます。同時選挙で勝利をおさめた上で、10月には消費税を10%への引き上げ、憲法に自衛隊と緊急事態条項記入という高いハードルを越えることを狙っていたようです。(p.2へ続く)

14周年記念のつどいのお知らせ



元山仁士郎トーク in つくば
沖縄のアイデンティティと
日本の民主主義

10月19日(土) 13:30 開場
14:00 開演
市民ホールとよさとにて



「辺野古」県民投票の会代表・元山 仁士郎さんを迎え、講演とつくば市出身のギタリスト・稗田隼人さんのミニコンサートを企画します。

「イデオロギーよりアイデンティティ」、燃え上がるウチナンチュ(沖縄人)たちのウムイ(思い)を、元山仁士郎さんからダイレクトに聴ける絶好の機会です！ 参加者みなさんで様々な考えを共有し、輪を広げていきましょう！ 特にこれからの時代を担う若い人たちのご参加を、大いに期待しています。みんな、集まれ！！

しかし、事態は安倍政権の思惑通りには進みませんでした。何よりも、年金問題が政府批判への導火線となりました。「100年安心」の筈の年金が、支給額は年々低下、95歳まで生きるには、2000万円の資産が必要という金融審議会の答申を、政府が受け取らずに、なかったことにしてしまうという「ウソと隠し」の安倍政権のありようが、強い批判を招いたのでした。これで同時選挙は吹っ飛びました。

安倍首相が自分では得意と思っている外交も、四面楚歌。北朝鮮とは触れ合うきっかけさえ作れず、北方領土問題でも日韓関係は後退するばかり、莫大な兵器を爆買いして親密な友人となった筈のトランプ大統領からは、更なる軍事負担と農業問題での妥協を求められています。イラン訪問では、米国とイランの関係改善にはむしろ裏目に出てしまいました。こうした現状も、国民の中によく知られるようになっていきます。

そして、安倍政権の内政のお粗末さも明らかになっています。先の年金問題にも関連して、国民生活に最も関係の深い予算委員会は、衆議院では3月2日以来全く開かず、政府統計の不正問題もうやむやです。国会で審議すべき重要な情報は隠蔽し、政府与党に不都合な情報は国民の目から隠し続けてきました。こうした問題から野党と国民の目をそらせるために、安倍政権は、今度の選挙で、改憲を争点にすると言い出しました。

安倍政権は、いま、あらゆる面で追い詰められています。この状況下で行われる歴史的選挙において、平和で希望溢れる明日の日本のため、多くの有権者が投票場に足を運び、安倍政権に退陣の審判を下すことを期待したいと思います。（9条つくば世話人 長田満江）



3000万署名で対話を広げ、 参議院議員選挙で安倍改憲勢力を少数に！

2019年6月30日、米朝首脳が朝鮮半島の軍事境界を初越境するという歴史的な出来事が起きました。そして、首脳会談で非核化協議を再開することで合意し、近く米朝双方の代表団による実務交渉を始めると発表、これまでの合意を具体化する重要な一歩です。

6月26日閉会した通常国会でも安倍政権は改憲発議できませんでした。これは、国会での立憲野党の結束と全国の市民の草の根運動の結果です。安倍9条改憲 NO! 全国市民アクション事務局ニュース(6/27付け)によると、この国会に提出し、受理された「安倍9条改憲 NO!3000万人署名」は、152万9,695筆とのことです。(一部、類似の請願項目署名も含む)また、3000万人署名運動は「当面、国会発議を断念させる状況を作り出せるまで継続する体制をとり続ける」とのことです。(第21回全国市民アクション運営委員会 6/13日)

憲法9条の会つくばの署名数は当面目標の4000筆を達成したところです。引き続き、安倍9条改憲発議の阻止に向けて、署名の輪を広げて行きましょう。

自民党は9条改憲を参議院選挙の公約に掲げています。市民と野党の共闘で、安倍改憲勢力を少数に追い込むために、3000万人署名で対話の輪を広げて行きましょう。(共同代表：武田)

記念講演

幸せの経済への帰り道 —求められる政策の正しい在り方—

浜 矩子さん (同志社大学大学院教授/国際経済学)

浜さんは、自ら命名した「アホノミクス」の「アホ」たる所以、「アク」たる所以を話す、と前置きされて、次の4つの章立てで、80分間の講演に臨まれました。

- (1)「幸せの経済」とは何か。
- (2)今は、何の経済の時代なのか。
- (3)どうすれば「幸せの経済」に帰れるのか。
- (4)今、問いたさすべきこと。

(1)「経済」とは本来、人々を「幸せ」にするためのもの

その基礎になるのが「基本的人権」の尊重、「生存権」を守ること

「幸せの経済」と言うと「不幸せの経済」と対置されるようだが、「経済」とは本来、人々を幸せにするためのものである。経済活動という営みに携わるのは、生き物の中で人間だけ。経済が人間に「不幸」をもたらすというのは、つじつまに合わないこと。偽りの経済活動でしかない。

「ブラック企業」という言葉が、それを端的に表現している。ただし、「企業」という名づけは、それが経済活動をしていると認知していることになる。「ブラック」は、「企業」とは相反するものである。

「ブラック」をなくすことで、人間を幸せにする本来の経済活動が成立するはず。その基礎になるのが、「基本的人権」の尊重、そして「生存権」を守ること。

(2)「ドアホノミクス」は、「幸せの経済」とは対極の方向に引っ張ってきた

「軍備増強」→「大日本帝国の復活」の野望のための経済政策

では、「幸せの経済」と言えない今、殊に日本の現在の経済は何なのか。それは、「下心政治がもたらす経済」の時代と言える。安倍政権の発足(2012年12月)から始まる「ドアホノミクス経済」は、「幸せの経済」とは対極の方向に日本を引っ張ってきた。

彼らの「下心政治」とは、21世紀版「大日本帝国」を復活させ、「大東亜共栄圏」の盟主になることをめざすもの。安倍自身が、「戦後レジーム(体制)からの脱却」を明言している。「戦後」がイヤだという

ことは、すなわち「戦前」に戻りたいということ。戦前の「大日本帝国」=国民を支配するファシズムに戻るためには、どうしても日本国憲法を変える必要がある。その目的は、もはや「下心」とは言えない露骨なものである。

2017年度・通常国会冒頭の所信表明演説でアベが繰り返したのは、「世界の真ん中で輝く国づくり」。——そんな“ボクちゃんが太陽”みたいな誇大妄想神話的なものを、国民はアベに託してはいない。

アベの「大東亜共栄圏」(戦前にはなかったインド洋も含む)の経済的ベースにしようとしているのが、TPP(トランス・パシフィック・パートナーシップ=環太平洋パートナーシップ協定)。一見、一国経済主義でTPPを離れたトランプ米国よりマシのようだが、実は“TYP”(=とってこ・やばい・パートナーシップ)でしかない。「経済強化」より「戦略的価値」に重点を置いているのが、議会演説で自ら表明したアベの思惑。経済政策に戦略的野望を入れることは、戦後の国際的合意に反するの…。

その私的野望と結びつくのが「アベノミクス」。アベ自身が、笹川平和財団のスピーチで「アベノミクスと外交安全保障政策は、表裏一体の関係にある」と明言している。

「デフレ脱却、経済成長」は、「幸せの経済」のためではなく、「軍備増強」→「大日本帝国の復活」の野望のための経済政策である。そこに国民を総動員しようとしている。その根底を見れば、「アホノミクス」は、全否定するしかない。“木を見て森を見ず”になってはならない。

- (3)「経済政策」の本来の使命に立ち帰るために
①「均衡回復」と、②「弱者救済」～両者は表裏一

体の関係にある～

①経済のバランスが崩れると、たちどころに②弱者が傷む、というのは必然の帰結である。

激しいインフレになれば、日々の物価が上昇し、貧困層の生活が行き詰まる。

厳しいデフレになれば、物の値段が下がり続ける。そうなれば物を作っている人たちの賃金が下がる。生活が脅かされるということは、生命が脅かされることにつながる。

正しい経済政策に立ち帰らせるためには、我々が“綱引き”に勝利することが必要。“綱引き”とは、“光” vs “闇” のたたかいである。しかし、この“綱引き”は、たたかう前から“光”の勝利が決まっている。

それは、「新約聖書」の聖ヨハネによる福音書の冒頭に書いてある。「はじめに言葉があった。言葉は神とともにあった。言葉は神であった。…言葉のうちに生命があり、生命は人の光であった。光は闇の中で輝いている。しかし、闇は光の存在すら悟ることができない。」

——敵の存在すら認識することのできない“闇”が、“光”に勝つことはできない。“光”には今の“闇”のヒドさが見えているが、“闇”はそれがわからないから“失言”（正しくは“ホンネ”）を繰り返す。

(4)「君の名は？」という問いを彼らが発してくる言葉を、その土俵で使わないこと

“光”チームが“闇”の軍団に問いただし続けるべきは、「君の名は？」という問い。

彼らが発してくる「アベノミクス」や「三本の矢」や「働き方改革」という言葉は、耳当たりがよく、「幸



せ」をもたらしてくれるかのように聞こえるが、本当の「名」は、「ドアホノミクス」であり「働かせ方改革」であり「お国のための人間大改造計画」である。マスコミは、向こうの言葉（下心）に無批判に乗っかってしまっているが、我々は、決して彼らの言葉では語らない。彼らが発してくる言葉を、その土俵で使ってはならない。

*浜さんの問いは、主に経済政策について語られましたが、それはアベ政治全体に向けられるべきものではないでしょうか。例えば、「安保法制」という“ゴマ化しの言葉”は、「戦争法」という“真実を表す言葉”によって実態が見えてきます。「日米安全保障条約」と「日米軍事同盟」、そして「普天間移設」と「辺野古新設」はどうでしょうか。アベ政権の言葉によるゴマ化しは、「撤退」を「転進」と言い、「全滅」を「玉砕」と言い換えた大本営発表と全く同質のものです。

浜さんが「アホノミクス」という“真実を表す言葉”で本質を看破したような知の力を私たち一人一人の武器として、“闇”とのたたかいに勝利する決意を新たにしたい講演でした。（後藤）



孫崎氏を招いて講演会が開催されました

第24回講演と対話の集いが6月16日（日）のつくばイノベーションプラザで開かれ、85人が参加しました。主催は研究学園都市研究所・大学関係9条の会（研・学9条の会）で憲法9条の会つくば、つくば市平和委員会、全日本年金者組合つくば支部、新日本婦人の会つくば支部、新しいつくばを創る市民の会の5団体が協賛しました。

集いでは、孫崎 享氏（元外務省・国際情報局長）を講師に招いて、「東アジアの平和と日本の安全保障」と題して講演が行われ、孫崎氏は、日米安保条約の下で米国の核の傘が本当に存在しているのか、日本が中国に攻撃された時、本当に守ってくれるのかなど、元外交官らしく国際関係の現状分析の上で、全て幻想にすぎないことを、わかりやすく説明してくれました。また日米地位協定には、米軍基地の駐留経費負担の義務はなく、日本は世界の最高額のドイツの2.6倍も負担しており、ドイツ並みに減額すれば5000億円の予算を他の分野に振り向けることができます。また憲法9条の改正の動きは安倍政権の方針だけでなく、米国の世界戦略の変化が背景にあり、自衛隊の海外派兵を必要とするようになってきたためであります。

講演の後、質問を中心にした対話集会がおこなわれ、質問用紙の提出は15名でした。アンケートは20名の方が提出してくれました。研・学9条の会のアピールへの賛同署名が4名もあったことを報告します。

（研・学9条の会 世話人 手島昌己）

「憲法9条の会つくば」の活動から



◆賛同人 2019年7月10日現在
総数 993名 (市内 716名)
◆3000万署名 7月10日現在 4234筆

当会では毎月第3日曜日に定例署名、9日に9の日署名を行なっています。その他、「戦争をする国づくりNO@つくば」と共に、毎月3日「アベ政治を許さない」スタンディングと署名を行ないます。

@つくば共同行動 スタンディング

▼6月3日 前日2日の県母親大会への参加でお疲れが残ったのか、参加者は少なめでした。

平日でバスセンター付近を歩く通行人も多くはなかったですが、「最近沖縄戦についてレポートを書いた」という大学生がチラシを受け取ってくれ、つくばでも沖縄の問題を身近に感じてくれる若者がいることを嬉しく感じました。病氣療養中のWさんが元気になれ久しぶりに参加されました。▼7月3日 梅雨の晴れ間でしたが参加者は8名でした。スタンディング中に署名が1名分、アルス前に場所を変えての署名は16名分集まりました。つくば市以外の方の署名もありました。

定例・ 9の日署名

▼6月16日(日)の定例街頭署名の日、午後から孫崎亨氏の講演会があるため少し時間を早めて11:00~12:00、アルス前で署名活動をしました。参加者は2人、頂いた署名は21筆。若いカップルが署名に応じてくださったことが、この日の特徴でしょうか。カップルが署名して下さる場合、女性がまず署名に応じ、その後で相方の男性が署名をする、というパターン。家庭円満の秘訣か？(署名担当長田)

3000万署名 戸別訪問の報告 吾妻4丁目・東2丁目

5月25日(土)の午前の約1時間、運動会の季節で朝から日差しが強く汗ばむ陽気の中、吾妻4丁目の吾妻東児童館付近の約70軒の1戸建て住宅を対象に、3000万戸別訪問署名を行いました。前もって「連絡会」のYさんが署名

用紙と案内をポストイン。新婦人・9条の会つくば・年金者組合から5名が参加、二組に分かれて訪問しました。前もって用意してくださった方も数名おられ、終了間際に児童館駐車場に車で届けてくださった方もおられました。運動会の時期で留守が多かったです。協力いただいた署名は15筆(9条の会つくば8筆、新婦人7筆)でした。

通常国会会期末近くの6月15日(土)、東2丁目地域へ署名行動に入りました。案内文と署名用紙をあらかじめポストイン。前もって地元のYさん宅に届けてくださった方が2名おられました。あいにくの雨と風が強い天気でしたが、新婦人・9条の会つくば・共産党つくば市委員会から6名参加、3組に分かれて96軒訪問しました。いただいた署名は36筆(当会分は12筆)でした。あらかじめ用意されておられる方が多かったです。(野崎)

つくば市母親大会 平和分科会

6月30日島名杉の子保育園で開かれたつくば市母親大会の平和分科会には、雨の中、26人(男性7人)が集まりました。元自衛隊員で4月まで土浦市議だった井上圭一氏が助言者です。井上さんのお話で、自衛隊は、すでに世界的に有数のトップレベルの武器兵器を備えており、新たにアメリカからあれこれ買う必要はないこと、ジブチには恒久的な日本の基地が作られており、地位協定を結んでいるがその内容は、自衛隊のおこす軍事的過失はすべて免責となっていること、自衛隊の人員不足の現状などが印象に残りました。長田さんから、現在の日本の借金、軍事費の推移、中期防の内容、賃金、年金、税、暮らしなどの客観的なデータ豊富な資料が示されました。安倍政権の政治姿勢がいかに、国民の生活を破壊し、アメリカに追随する危険なものかが良く分かる内容でした。参加者から次々と質問や意見が出され、平和を願い、安倍政権のトランプ政権追随、国民生活破壊の政治を打破したいという皆さんの思いが感じられる分科会でした。(阿部きよ子)



ドキュメンタリー映画

「主戦場」

ミキ・デザキ監督
(2018年/アメリカ/122分)



2018年10月、釜山国際映画祭で上映されたこの映画を観た大矢英代・監督は、大きな衝撃を受けた。日本での公開を決めたのは、自身が共同監督した『沖縄スパイ戦史』を配給した「東風」である。物議をかもすことが必至の日本公開には、多大なリスクが伴った。しかし、今年4月20日に渋谷で単館上映されると大反響を呼び、全国に公開が広がっている。「日本のヤバさがわかった」「いま最も見るべき映画」などの感想が投稿された。

メインの内容は、「従軍慰安婦」の「強制連行」をめぐる、否定論者たちと歴史的事実とする人たちへのインタビューである。

日系米国人のミキ・デザキ監督(36)は、上智大学院の卒業制作のためとして、立場の異なる日米韓の30人以上にインタビューを申し込んだ。彼自身が慰安婦問題に明確な“答え”を持たずに取材を始めたため、「双方の主張を聞くうちに、どちらが正しいかわからなくなり、頭の中が『戦場』のようになって苦しんだ」と言う。やがて、「慰安婦問題は人権問題だ」との結論に至り、否定側と肯定側の主張を交互に映像でつなぎ、テーマごとにあたかもディベート形式の論争が行われているような臨場感で映画を構成していった。そして、否定側が「元慰安婦の証言は信用できない」としている元慰安婦の高齢の韓国女性が語る映像を、映画の冒頭と最後に配置した。

否定側の錚々たる顔ぶれ(敬称略)は、櫻井よしこ、杉田水脈、藤岡信勝(新しい歴史教科書を創る会)、ケント・ギルバート…そしてアメリカからはトニー・マラーノ(=「テキサス親父」)らが登場する。否定論者の自信に満ちた持論・主張を正面から聞くのは、ある意味、新鮮な驚きさえ覚える。

一方、反駁する側も日・韓・米の歴史学者、政治・法学者、弁護士、人権活動家、ジャーナリストなど多岐にわたる。吉見義明、渡辺美奈(女たちの戦争と平和資料館)、中野晃一、小林節、俵義文(子どもと教科書全国ネット21)らが否定論者の主張を受ける形で論戦を展開する。

映像では、インタビューに答える人物の顔が大写しにされる。「ニヤニヤ笑いながら人を攻撃する人や、物静かに真摯に語る人の表情から、語られる言葉以上の情報が伝わり、観客の心が揺さぶられる。映像の力だと思う」(映像作家・森達也さん)。途中から、否定論者の肩書に「歴史修正主義者」の文字が加わる。

ディベートの勝敗の方向が決定的になっていくのは、日本の再軍備を促す米国によってA級戦犯容疑者・岸信介が巣鴨プリズンから出てきて政界に復帰し、「明治憲法国家への回帰」が進められようとするニュース映像のあたりからである。「靖国神社」「日本会議」そして「安倍晋三」とは何なのかが、次々と明白に示されていく。「歴史教育」に介入し、「教育基本法」を変え、「教科書検定」で縛っていく自民党のやり方も描かれる。

否定論者の最後に登場する加瀬英明(日本会議代表委員)の学問的主張を見聞きすると“反知性主義”が歴史的眞実といかに対極にあるか、啞然とせざるを得ない。

藤岡ら一部の出演者から「公正中立でない」と批判や上映差し止め、名誉棄損の訴えが出ているという。“否定論者の名誉”については「結」No.79で映画『否定と肯定』を紹介した中の木村草太氏の見解を参照されたい。

現政権を支持する人達がこの映画を観たならば、そのかなりの数が見方を変えるのではないと思われる。

(後藤)

インフォメーション

- ◆8月4日(日) 14:00~(13:30開場) 朗読劇「ヒロシマ・ナガサキ2019」アルスホール 主催:サラダの会
- ◆8月15日(木) 15:00~17:00「終戦の日の音楽の集い」自由が丘めぐみ教会 連絡先:川崎090-6312-4413
- ◆8月15日(木) 10:00~、13:00~映画上映『明日へ』8・15 平和のつどい 亀城プラザ文化ホール 前売り1000円、当日1300円 連絡先:福田090-3537-2632
- ◆8月25日(日) 9:00~16:30 県民教夏の集い「多様性のある社会を作るには」(仮題) いばらきコープ土浦店2階会議室 連絡先:吉井090-9155-3464
- ◆9月11日(水)~16日(月) 10:00~18:00 豊田直巳写真展「フクシマ~叫びと囁き」土浦市民ギャラリー 参加費無料 連絡先:長田090-7845-6599
- ◆9月13日(金) 14:30~、19:00~映画上映「あの日のオルガン」つくばカピオホール 前売り1200円 当日/一般1500円、学生1300円/小・中学生800円 連絡先:野崎090-4074-4964

行動予定

- 7月20日(土) 13:30~世話人会 並木交流センター
- 8月3日(土) 13:00~アベ政治を許さないスタンディング(予定) つくば駅A3出口 13:30~署名 アルス前
- 8月9日(金) 12:00~13:00 9の日署名 アルス前
- 8月17日(土) 10:00~12:30 事務局会 市民活動センター(予定)
- 8月18日(日) 12:00~13:00 定例署名 アルス前
- 9月3日(火) 13:00~アベ政治を許さないスタンディング(予定) つくば駅A3出口 13:30~署名 アルス前
- 9月9日(月) 12:00~13:00 9の日署名 中央広場
- 9月14日(土) 結89号発行
- 9月21日(土) 13:30~15:30 世話人会 並木交流センター(予定)